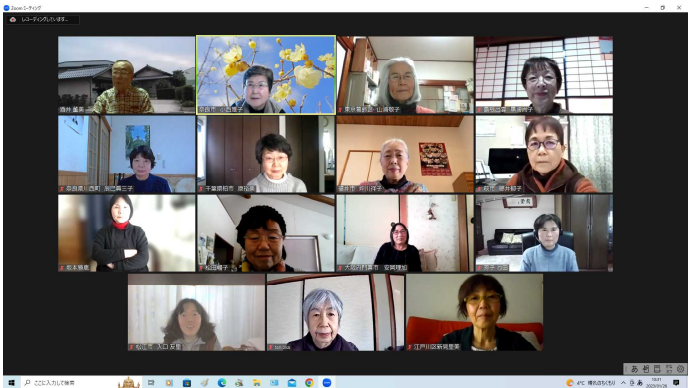


## 第二回「山陰の民話とわらべ歌ミニオンライン講座」

酒井 董美<sup>ただよし</sup>

26日朝・終了後の記念撮影（奈良・小西さん撮影）

昨年9月8日にスタートした標記の講座は、毎月2回のペースで行われ、昨日予定通り10回のスケジュールを終えた。開始前の講座登録数は25名だったが、途中からの参加希望者が7名加わって終了時点では32名になっていた。受講者の住む地域は全国的であり、東から挙げておくと、東京、千葉、埼玉、福井、奈良、兵庫、大阪、鳥取、島根、山口、福岡の11都府県に及んでいる。受講料は1回百円で講座修了後、銀行口座に振り込んでいただくようになっている。

講座はZOOMによるオンラインで行い、内容は1回につき、筆者が半世紀以上にわたって収録した民話、わらべ歌を一つずつ取り上げ、伝承者の音声とNHKテレビで山陰両県向けに放映した「山陰の民話」を視聴しながら、筆者が解説を加え、質疑応答するスタイルであった。講座案内とプログラムは事前にメールで送り希望者を募る。その回のテキストは、実施日の二日前にメール添付で送っておき、それにはQRコードで伝承者の収録当時の語りや歌が聴けるようになっていいる。つまり臨場感を持つて参加出来る仕組みになっているのである。

講座は毎月、隔週2回行い、1回が1時間で朝9時30分と、朝の都合の悪い人のために内容は変えず、同じ日の夜8時から実施と、2度行う形を取り、関心のある方は朝だけでなく夜参加しても料金は変わらないというようにしておいた。受講者が変われば質問も違い、興味を引くのだろう。常に二度参加された方は2名（東京と福井）だった。最終回の昨日の参加者は筆者を除いて朝が写真の通り14名で、夜が10名だった。

参加者はお互い顔馴染みになり、居住地は離れていてもオンラインで顔を合わせるわけなので違和感はなく、まるで近隣の知人同士のような心やすさになるのは、パソコンのおかげだと文明の利器の効用に感謝している。昨年暮れには東京のYさんが、福岡に住む娘さんを訪ねた機会を利用して、この講座仲間の福岡のMさんと交歓なさったけれど、「旧知の仲間として何の遠慮もなく話し合えました」と報告をいただいた。

筆者としては無形民俗文化財である口承文芸（民話、わらべ歌、労作歌などの民謡）を、保存伝承しておくべきだと、長年、調査研究を続けていた者として考えているので、何名もの方から講座継続の要望をいただいていることを追い風に、三月から第三回「山陰の民話とわらべ歌ミニオンライン講座」を、これまでと同様10回一区切り。料金だけは前納に変えて開催しようとテキストの準備も済ませたところである。来月20日を申し込み締め切りにおいていたが、どう発展して行くのか今後が楽しみなのである。